

地域の子どもたちを見守って!! ～児童の一人歩きは要注意～

最近、児童の下校時の痛ましい事件や、児童を対象にした悲惨な事件が多発しています。市教育委員会ではこうした事件に対応するため3つの会議（仙北市小・中学校緊急会議、「子供110番の家」緊急連絡会、みんなで守る子どもの安全・安心緊急集会）に参加し、関係者との意見交換をしました。

会議では、「不審者情報の提供」や「市への防犯体制組織化の希望」、「警察の監視パトロール強化」など、防犯協会や学校関係者から多くの意見がでました。



「防犯協会と防犯指導隊、警察が合同で行った安全教室（西長野小）」

親から子どもへの安全教育

子どもを犯罪者から守るのは大人の役目です。しかし、いつどこで、子どもが誘拐やいたずらにあうかわかりません。普段の生活の中で子どもにも防犯意識をもたせることが大切です。次のことを子どもに読んであげてください。

外出時には、必ず行き先をきく

外出時には、必ず「だれと」「どこで」「何をするか」「何時頃帰ってくるか」を言う習慣を身に付けさせましょう。時間を意識させたり、危険な場所に行くことを未然に防ぐことができます。



一人で遊ばせない

子どもが犯罪に巻き込まれるケースで一番多いのは、一人で遊んでいるときです。遊びに行くときは一人にならないように教えましょう。また、一人で遊んでいる子どもや遅くまで遊んでいる子どもを見かけたら、早く帰るよう呼びかけましょう。



知らない人にはついて行かない

「お母さんが呼んでるよ」「お人形を買ってあげるよ」などと、言葉巧みに声をかけ、子どもを連れ去る事件はいつの世もあります。知らない人には何があってもゼツタイについて行かないよう教え、危険な目にあったら「助けて」と大声を出すよう言い聞かせましょう。



毎日、何があったか話し合う

危険な目にあっても、叱られることを恐れ、黙っている子どももいます。何でも話し合えるよう、子どもとのコミュニケーションを大切にしましょう。



◆不審者情報がありましたらご一報ください

・仙北市警察署

TEL 0187-53-2111

・仙北市教育委員会

TEL 0187-43-3382

— 角館高校の教育実践紹介 —

全教員での小論文指導～「朝の10分読み」を通して

タイトルから、全国の学校で話題になっている「朝読書」をイメージする方もおられるかもしれませんが、角館高校の実践は遅刻防止や授業へのスムーズな導入などをねらいとしているものではなく、読書本来の豊かな人生観の育成を図りながら、小論文指導を充実させることをねらいとしています。この実践は平成15年度と16年度の2年間「国語力向上モデル事業の研究指定校」となったことが発端で始まり、研究指定終了後も発展的に継続しています。

毎朝、8時から20分間の朝学習の後、SHRまでの10分間、真剣に文章を読む生徒達の姿があります。それらの文章は全教員が生徒に是非読ませたいと提供したものです。選んだ教員の名前とコメントが書かれ、そこにはそれぞれの専門や感銘を受けた本との出会いを生かしてテキストを作成する全力でのメッセージがあります。文章を選んだ人とその意図や願いなどが表れた原稿は生き生きと魅力を放ち、それらを受けとめて読んだ生徒達は2、3行の感想を書き込み、ファイルしていきます。

図書館には、朝読みコーナーも設置され、関連がある本を展示し、読書の幅を広げていく一助となっています。さらに朝読み通信を発行し、原稿を提出した先生の思いや生徒が書いた感想、朝読みで出された作者の紹介などを掲載し、理解を深めながら教員や生徒同士の心の交流を図ることを目指しています。

アンケートでは、「知識の幅が広がった」「読むことに意欲がでた」「文章をまとめる力や書く力が付いた」などの変容を感じている生徒が多く、小論文模試の成績なども少しずつ上昇してきています。

小論文指導は全教科対応がますます求められ、全教科の指導を結集させる効果的方法を各高校とも模索しています。この実践は全教員が参加した小論文指導の一つの方法であり、全教員がタイムリーで内容豊富な情報を提供し、生徒の思考力、表現力を鍛える取り組みです。



集中して文章を読み感想を書きます